

令和4年度「慢性の痛み解明研究事業」における事後評価について

令和5年9月

国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
疾患基礎研究事業部 疾患基礎研究課

事後評価は、各課題の研究開発の実施状況、研究開発成果等を明らかにし、今後の研究開発成果等の展開及び事業等の運営の改善に資することを目的として実施します。

慢性の痛み解明研究事業では、本事業における事後評価の評価項目に沿って、課題評価委員会において、書面・ヒアリングによる事後評価を実施しました。

●総評

本研究事業では、原因が明らかでなく対応に苦慮する痛みや、適切な対応を行っているにもかかわらず残存する痛みを対象に、画期的治療法を開発する上での客観的指標に基づく介入群の設定あるいは治療法に資するシーズを発見することを目標としています。

評価委員会では、令和4年度で終了した4課題を対象としました。いずれの課題も計画通りに進捗が良好であったとの評価を得ました。

「神経軸索保護剤による神経傷害性疼痛治療法開発研究」は、化学療法誘発性神経障害性疼痛治療法の確立につながる化合物を発見したことが評価されました。

「睡眠および情動障害を伴った複合型疼痛の遷延化機序解明と新規治療法の探索」は、線維筋痛症患者の疼痛に関与する可能性がある因子を発見し、線維筋痛症の病態解明に寄与したことが評価されました。

「miRNA 網羅的解析による神経障害性疼痛バイオマーカー探索に関する研究開発」は、miRNA 網羅的解析を通じて疼痛に関与する新たな候補因子を見出し、疼痛バイオマーカーとしての可能性を示したことが評価されました。

「条件づけに由来する痛みの視覚化および画期的慢性疼痛治療薬に向けた研究開発」は、セロトニン受容体に対する化合物の機序を解析し、新規鎮痛薬としての可能性を明らかにしたことが評価されました。

●対象 4 課題

侵害受容性疼痛としての特徴を持つ慢性疼痛における、物理的刺激に対する応答変容の機序解明に向けた研究			
研究開発課題名	研究開発 代表者名	所属機関	役職
条件づけに由来する痛みの視覚化および画期的慢性疼痛治療薬に向けた研究開発	中村 雪子	大阪精神 医療センター	主任 研究員
慢性疼痛の客観的・定量的評価法の確立に向けたシーズ探索に関する研究			
研究開発課題名	研究開発 代表者名	所属機関	役職
miRNA 網羅的解析による神経障害性疼痛バイオマーカー探索に関する研究開発	中村 雅也	慶應義塾大学	教授
慢性疼痛に影響する複合的要因の分析に基づく、効果的な治療法や介入法の確立に向けた研究			
研究開発課題名	研究開発 代表者名	所属機関	役職
神経軸索保護剤による神経傷害性疼痛治療法開発研究	荒木 敏之	国立精神・神経医療 研究センター	部長
睡眠および情動障害を伴った複合型疼痛の遷延化機序解明と新規治療法の探索	成田 年	星薬科大学	教授

●評価のスケジュール

書面審査実施期間	令和 5 年 7 月 27 日(木)～8 月 10 日(木)
面接審査	令和 5 年 8 月 25 日(金)

●課題評価委員 名簿

	氏名	所属・職名
評価委員	今村 佳樹	日本大学 特任教授
評価委員	上野 雄文	国立病院機構 肥前精神医療センター 臨床研究部長
○副委員長	大野 裕	認知行動療法研修開発センター 理事長
評価委員	小幡 英章	埼玉医科大学総合医療センター 麻酔科 教授

評価委員	河野 達郎	国際医療福祉大学 麻酔科 教授
評価委員	中島 八十一	四徳学園 長野保健医療大学 特任教授
評価委員	比嘉 和夫	福岡大学 名誉教授
評価委員	細井 昌子	九州大学病院 心療内科/集学的痛みセンター 講師（診療准教授）・副センター長
評価委員	松原 貴子	神戸学院大学 教授／総合リハビリテーション学研究科長
◎委員長	宮坂 信之	東京医科歯科大学 名誉教授
評価委員	山岸 暁美	慶應義塾大学 医学部衛生学公衆衛生学教室 講師

◎委員長 ○副委員長

PS・PO 名簿

	氏名	所属・職名
PS	眞下 節	大阪大学 名誉教授／市立豊中病院 顧問
P0	天谷 文昌	京都府立医科大学 医学部医学科疼痛・緩和医療学教室 教授
P0	牛田 享宏	愛知医科大学 医学部 学際的痛みセンター 教授
P0	中江 文	国際電気通信基礎技術研究所 主任研究員

●評価項目

- ①研究開発達成状況
- ②研究開発成果
- ③実施体制
- ④今後の見通し
- ⑤事業で定める項目及び総合的に勘案すべき項目
- ⑥総合評価

以上